



特集

SPECIAL ISSUE

イマドキ高校生は留学SHY!?

近年、日本からの留学生が減少傾向にあるといわれて数年がたちます。背景にはさまざまな「行かない」「行けない」理由があると考えられますが、実際、高校生たちは国際交流や留学について、どう感じているのでしょうか。

川崎市内で唯一国際科を有する、市立橋高等学校*の特別授業に参加して生徒たちの様子をみてきました。

今回伺ったのは、1年生と2年生の少人数グループアクティビティー授業(英語)で、ちょうど、JICA(Japan International Cooperation Agency)横浜から海外研修員14名(カンボジア・ガーナ・イラン・モルディブ・パキスタン・サモア・南スーダン・スリランカ・スーダン・ウガンダ・イエメン)をゲストに迎えていました。司会進行も生徒達が行い、海外研修員と生徒とが相互理解とコミュニケーションを深めることが目的のようでした。

まず、校内で出会った生徒の皆さま



んの元気な挨拶に感心しました。1年生はまだ慣れないながらも、一生懸命伝えようとしていたのが印象的でした。2年生になると、語学力やコミュニケーション力に成長を感じる場面がありました。

このような小さな国際交流の積み重ねが将来の異文化間の相互理解の第一歩になるので、貴重な体験と感じました。多民族国家出身の海外研修員は、自国では単一言語ではないため、橋高等学校の生徒が全員日本語を話すこと自体に驚いたり、日本文化や日本の高校生にも大変興味を示していました。

このような異文化交流や理解のための試みが広がり、川崎の元気な学生たちが、より広い世界で経験や理解、交流を深め、日本で、そして国際社会で活躍してほしいと改めて思いまし

た。異文化はもちろん自国についても知識を得て、自信を持って伝えられることが大切だと思います。そのために、周りの大人たちができることは…? 地域レベルで考えれば、やはり毎日の生活の中にある「国際」「多文化」に対して興味を持って、参加したり、交流したり、受け入れることを「自然に」することではないでしょうか。

(取材・文:編集ボランティア 青柳尚子/相沢明子)

(公財)川崎市国際交流協会ではこんなこともやっています。ボランティアとして、参加者として、ぜひご参加ください。(詳細は協会事務局まで)

- 市内小中学校への国際理解教育ボランティアの派遣
- 語学講座、国際理解講座等の開催
- ホームステイ・ホームビジットの紹介(登録ボランティア)

川崎市立橋高等学校ICC (インターナショナル・カルチュラル・コミッティー) 所属の在校生 アンケート

学科を選んだ理由は?

- 高2のホームステイでは、1家庭に生徒1人なので自立心が育つと思った。韓国語、中国語も学べることに魅力を感じた。
- より外部との接触が多いこの学科を選びました。
- ALTの先生の数など他校に比べて生きた英語を学べると思った。

- 普通の高校生ではできない体験ができると思ったから。

ALTや外国人生徒等との交流は?

- 英語を鍛える良い機会。自分の能力を高められ、将来外国で活かせる力となります。
- ALTとの会話や外国人生徒との交流によって、自分から積極的に話しかけたり交流することができるようになりました。
- 文化の違いはいつも感じます。相手の話を聞いて理解しようと思って交流しています。

※ALT=外国語指導補助(通常外国人講師)

カリキュラム(授業、語学研修等)を通じて得たこと、感じたことは?

- 英語力・コミュニケーション力を高

- められていると思っています。
- 自分が持っていた外国のイメージが、他国の人の話や世界とつながる仕事をしている人の話を聞いて変わった。

将来の希望、夢は何ですか?

- 英語の通訳
- 貿易関係の仕事
- グランドスタッフやツアーコンダクター
- 世界とつながる仕事

将来、留学をしたい?

- 全員 YES!
- より早く英語を習得したいから。
 - 大学は外国に行くつもり。
 - 長い期間、海外の文化や雰囲気に触れて勉強したい。
 - 自分の力を試すためにもしたい。

国際社会に向かって、強く前向きに。(抜粋)

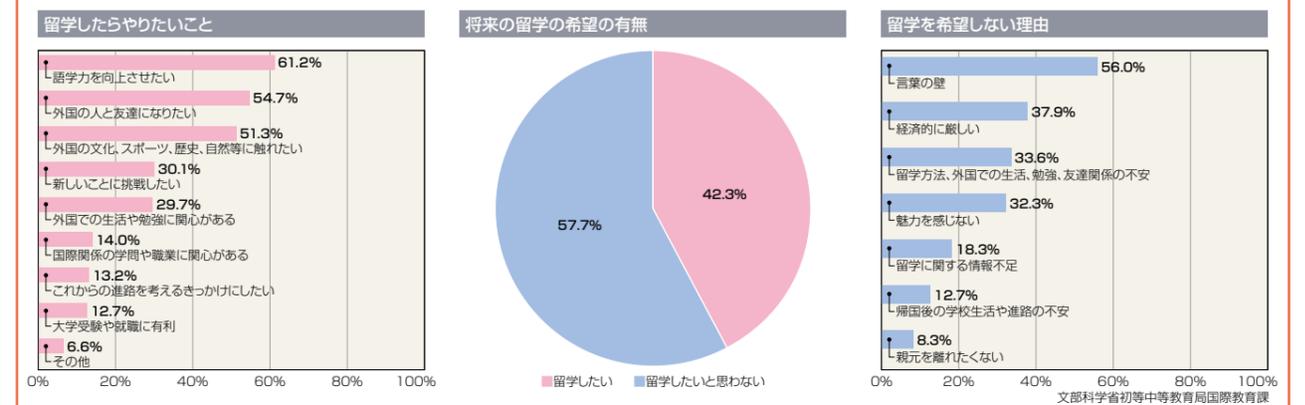
国際科を持つ学校の教員としては、国際交流活動に前向きに楽しく取り組むことができる生徒を誇りに思います。幼児の頃から英語に触れている生徒もいれば、中学校から英語学習を始めた生徒もいます。英語への興味関心や自信は人それぞれですが、海外からのゲストと交流活動をする際に出るエネルギーは素晴らしいものがあると思います。入学前から英語や国際交流活動に興味があった生徒がほとんどですが、現実的には日々の学習や部活動に追われ、入学前の気持ちを維持及び向上させる

ことができる生徒は全員とは言えません。ただ、交流活動を企画・実施することにより、自分の将来に対する目標を再確認し、更にもその意思をより強固なものにすることができています。

国際社会に通用する人材育成を目指し、生徒が自ら課題を見つけ、自ら考え、強い気持ちで前に進むことができるような指導をしていきたいと思っています。(当協会ホームページに全文掲載)

川崎市立橋高等学校 角田 裕一

参考資料



平成23年度 高等学校等における留学(3ヶ月以上)状況について

- 全国(文部科学省初等中等教育局国際教育課)
 - 延べ3,257人、延べ1,657校 (行く先は43か国にわたり、渡航先で多い順に、アメリカ、ニュージーランド、カナダ、オーストラリア) 文部科学省ホームページより: http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/25/04/1332931.htm
- 神奈川県内(県立、国立、私立)(神奈川県教育委員会調べ) 73名(留学先:アメリカ、カナダ、ニュージーランド、イタリア、オーストラリア、ドイツ、フランス)
- 川崎市立高等学校(川崎市教育委員会調べ) 2名(ブラジル、カナダ)
- 高校生の留学と単位認定について 高等学校の留学では、校長が、外国の高等学校における履修を、日本の高等学校で履修したものとみなし、単位の修得を認定(上限あり)することができる(学校教育法施行規則第93条第2項)。

*川崎市立橋高等学校国際科(各学年1クラス39名)のカリキュラム(一部):1年次は「国内語学研修」(2泊3日)、2年次はオーストラリアでホームステイ(2週間)。外国人講師による少人数授業、専門外国語選択(中国語、韓国語)、開発途上国理解プログラムなど。